



R5.4.1

<はじめに>

サポートブックは、支援を必要とするお子さんが園や学校等での生活を安心して過ごすための支援ツールです。

家での様子や、お子さんの得意なこと苦手なこと、対応の方法を「保育園、幼稚園、学校、障害福祉サービス事業所等（以下支援者）が子どものことを理解することが目的」で保護者が作成します。

また、成長過程にあるために必要に応じて書き足しをする際には、支援者との丁寧な共同作業による作成過程で、保護者自身が我が子を客観的に見つめ、育ちを再認識できることにも、サポートブックを使用する意味があります。

サポートブックに書かれたことだけではわからないこともあると思います。このブックをきっかけにお子さんの姿を保護者と共有したり、今後の支援の方法について一緒に考えてみたり活用してください。

<保護者から書き方等の相談を受けたら>



作成方法について助言を求められた場合は、一緒にお子さんのことを考えてください。保護者の抱える困りの気持ちを受け止め、

「子どもの困り」と「保護者の困り」を区別しつつそうした行動が、いつ／どこで／どのようなとき／に生じていて、その時にどのような対応をとるとうまくいくのか、などを整理して、随時保護者へフィードバックしてってください。また、成長と共にお子さん自身が見ることも想定されます。記述表現は「否定的な表現を避け「…するとうまくいきます」といった肯定表現に努めることをアドバイスしてください。

お子さんの成長と共に情報更新する際は、更新して不要となったページは「お子さんの成長の記録」として保管すると、今後の支援や「障害年金申請」など今後の手続きの際資料として参考になることをお伝えください。学校や保育施設は1年預けておきます。障害児者通所施設は面接時に必要となりますので、複数作成が必要な場合がある事を伝えてください。

<サポートブックを受け取ったら>



子どもさんについての大切な個人情報です。

取り扱いについては、十分注意してください。

保護者の承諾なしにコピーなどをして2次的に使用することはできません。

支援者は、情報を共有しお子さんにとって同じ関わり方、同じ支援が提供出来るようお願いします。

サポートブックは作成された保護者から預かる物です。年度が変わるタイミングで一度返却し、保護者に内容を更新して頂きましょう。